労山全国連盟　メールニュース

発行：日本勤労者山岳連盟　メディア局
2016 年 12 月 1 日　第 27 号

▲△１：16 年ぶりに全国登山研究集会（全登研）を東京で開催

日本の登山文化・技術を次世代に継承発展させよう！

--労山の歴史や、各地方連盟・各会の活動に学んで---

---

16 年ぶりとなる第 16 回全国登山研究集会（主催:労山全国連盟　略称:全登研）が、11 月５日（土）～６日（日）に東京・渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。参加したのは地方連盟、各会からの参加者と全国役員・専門委員で５日＝134 名、６日＝128 名、２日間に参加した人は全部で 149 名でした。初日は全体会で、会場は椅子が足りず、立ち見がでるほどの盛況ぶりでした。

今回、16 年ぶりに全登研を開催した目的は３つあります。①山を愛する心と安全に登るための技術を次の世代に継承する、②会員を含めた国民の多様な登山要求に応えて、登山文化を豊かに育む、③労山の歴史と経験をふまえて、強固な会・クラブに発展させていく、の３点です。登山を次世代に継承発展させるには今どうすべきか、労山の歴史と経験をふまえ、地方連盟や各会の活動に学び、交流を行いました。

冒頭、西本会長は、「労山を語れる人が希少になってきている。これら先人の意志を今の人に継いでいってもらいたい」「登山は知的なスポーツだ。登る・読む・書くの３拍子そろった登山者になってもらいたい」と訴えました。

浦添理事長の基調講演は、「登山文化・技術を次世代に継承するために、労山の歴史から学ぶ」と題して、労山はどのような時代背景・登山要求の中で結成されたのか、趣意書の決定に至った経緯、そして趣意書各項目の重要な意義などについて語りました。

参加者からは、「３年前に入会したが、山岳自然を守る活動の一環で、労山が放射線量測定をしていたとは知らなかった。自分の知らない労山の活動を聞けて良かった」「趣意書を初めて知り、労山の長い歴史に驚いた」「入会して５年。良くわかった。きちんと体系的に聞けて良かった」「入会して 20 年。労山のことが今までよくわからなかった。初めていろいろ知ることができて良かった」などの声が寄せられました。

第 16 回全国登山研究集会の日程

５日（土）
●13:30　開会あいさつ　西本会長
●13:40～　基調講演　　日本の登山文化・技術を次世代に継承発展させよう！―日本勤労者山岳連盟の歴史から学んで―
　　全国連盟理事長・浦添嘉徳
●15:20～　目で見る労山の歴史
●15:50～20:00　報告　地方連盟・各会からのレポート（途中 1 時間の夕食休憩）

６日（日）
●９:00～12:00　分科会
①第１　山行管理と登山技術・遭難対策の実践と交流
②第２　楽しく活発に、安全に登り続けられる登山活動をめざして
③第３　新入会員を増やし、会運営の活発化をめざして
④第４　若い世代の登山者交流
⑤第５　ハイキング交流集会

基調講演を含む当日配布資料を提供します。

当日配付した資料集のＰＤＦ版（前半７ＭＢ　後半８．５ＭＢをメール添付で送ります。申込みは jwaf@jwaf.jp 事務局まで

「目で見る労山の歴史」をダウンロードできるようにしました。

ダウンロード用ＵＲＬ　http://jwaf.jp/download/RousanHistory.zip

ビデオ版（ＭＰ４対応）〔292ＭＢ〕、20 分。ダウンロードに 10 分弱かかります。

再生速度を 0.7 倍にすれば、20 分版を 30 分版にして見ることができます。

集会に先立って、地方連盟や各会に対し、全登研のテーマにそったそれぞれの活動レポートを募集しました。提出されたものはすべて資料集に収録されていますが、そのなかから 12 件について、初日の全体会で発表していただきました。

第４分科会（若い世代の登山者交流）

トップバッターは大阪府連・後藤恭志さん。「ハイキングセミナーの取り組み」について、1993 年に大阪府連盟主催で「初級セミナー」を開催して以来、これまでの 23 年間にセミナー修了者有志で結成された会・クラブが 14 を数えたとのことです。千葉県「船橋勤労者山岳会」の橋本光陽さんは、若手会員の置かれた労働環境は不規則性と長時間労働があり、山行活動も制限されること。若い人は縦走のほか、冬山、沢登り、岩登りと山行の幅が広いが、技術教育を通してキッチリ応えていくことが鍵であると語りました。同じく千葉県「松戸山の会」の渡辺敦子さんは、2013 年から毎年 15 名前後の新入会員を迎えて、会員が 80 名から 120 名に増えたこと。大事にしているのは「新人対応」で、新入会員は毎月一回の例会時の「新人ミーティング」に出席してもらい、「会の組織」「山の基礎知識」を系統立てて教えていることを紹介しました。兵庫県「高御位（たかみくら）山遊会」の砂川延也さんは、2000 年に 14 人で会を発足させたが、毎年会員を増やし 2013 年には 100 人を超え、今年 2016 年は 114 人となった。その拡大の原動力となったのが、播磨地域に労山を広げるための教室開催だと語りました。

岡山県「倉敷ハイキング倶楽部」の能瀬（のせ）雅国さんは、「ハイキングスクール」を通じて 2007 年からの 10 年間で会員を会員 200 名に倍増させ、リーダー養成の中級講座として「セカンド・ステップ」講座に 20 名前後の会員が参加していることをレポートしました

２日目には、５つの会場に分かれて分科会で討論しました。その内容は、次号でお知らせする予定です。

▲△２：「労山自然保護憲章」　制定から 10 年　今後の課題は…
全国登山者自然保護集会（茨城県・つくば市）で討論

全国自然保護委員会が主催する「第 18 回全国登山者自然保護集会」が 11 月 12 日（土）～13 日（日）、茨城県つくば市「筑波ふれあいの里」で開かれ、43 名（地方連盟 24 名、全国連盟８名、主管茨城県連 11 名）が参加しました。この集会では、「労山自然保護憲章」制定（2006 年２月）から満 10 年を迎えるなか、シカの食害や地球温暖化など新たな問題の出現を踏まえ、今後の労山自然保護活動の方向性を中心に論議がすすめられました。

基調講演は小川潔さん（東京学芸大学名誉教授）が「自然保護憲章制定から 10 年」と題して行いました。憲章制定委員会座長だった鈴木貫太さんからも資料提供があり、憲章がどのように誕生したか､憲章の果たしてきた役割と意義などが話されました｡つづいて、地方連盟（愛知、大阪、宮城、兵庫、千葉、東京、栃木など)から活動報告がおこなわれました。

２日目午前中は、３つの分科会に分かれて討論しました。

第１分科会＝現行自然保護憲章の役割と労山会員への普及
第２分科会＝自然保護憲章で今後盛り込むべき内容、改訂
第３分科会＝未組織登山者への自然保護意識の普及と情報発信

討論では、労山自然保護憲章が台湾の山岳団体でも高く評価されるなど、国際的にも知られるようになったが、労山会員のなかで憲章の存在を知らない人も多いことが指摘されました。

討論のまとめでは、この 10 年の間に新たに問題となってきた野生鳥獣（鹿、熊、猿、猪）と人間、自然との関係などについて、憲章に加えるか検討すべきであること、そして憲章をもっと身近なものにするために、より解りやすくするための工夫が大事であることが述べられました。

▲△３：青森県から石川県まで　女性たち 120 名が立山に
第 15 回東日本女性登山交流集会 in 富山を開催

参加者を歓迎する演奏

全国連盟女性委員会（藤元理津子委員長)が主催する第 15 回東日本女性登山交流集会が、10 月８日（土）～９日（日）に富山県・立山山麓にある国立立山青少年自然の家で開催され、120 名が参加しました。当日は、主管の富山県連（富山勤労者山岳会や富山ハイキングクラブ）のスタッフたちが参加者を笑顔で出迎えて、胡弓とピアノによる演奏で集会はスタートしました。

講演をお願いした山岳ライターの柏澄子さんは、これまでに取材した登山家・トレイルランナーなどの言葉を引用しながら、女性たちが人生それぞれのステージで息長く山を楽しむために「山と日常生活とのバランスが重要だ」と話されました。会場からの質問で「山ガールなど若い登山愛好家の傾向」を尋ねられると、「とても勉強熱心で、ステップアップ志向が強い」と回答。「上昇だけでなく、自分なりの山の楽しみを見つけることも大切」との考えを述べました。次に、富山大学の石崎泰男准教授は、「活火山・立山弥陀ヶ原の噴火史と現状」について、2500 年周期で水蒸気噴火が起きているなど、噴火史と不穏な現状を紹介。弥陀ヶ原には年間 100 万人が訪れることから、今後も継続的な観測が欠かせないと語りました。夜は富山ハイキングクラブ会員の赤星正明さんが作った「山は心のふるさと」（山は山は山は心のふるさとよ～♪）や、同じく猪谷守さんが作った「山と仲間」（今日も日が暮れ～♪）が歌われ、内容の濃い交流会となりました。

２日目の分科会では、美女平・弥陀ヶ原の「立山杉」、立山の遊歩道近傍に営巣する「ライチョウ」をテーマにそれぞれの専門家が講演。開催地ならではの内容でした。

地元スタッフの感想を聞いてみました。

…遠くは青森からお隣りの石川まで、多くの女性登山愛好家が富山での交流会に参加してくださった。受け入れ側としては、至らない点が多々あり、ご迷惑おかけしたことと思う。山を続けている母と共にお手伝いにかけつけたが、「誰に聞けば分かるの～？」「荷物はどうすればいいの～」「どこに行けばいいの～」の声を聞くたびに、いろいろな準備不足に気づかされ、勉強になった。集会では同じ趣味を持つ仲間と楽しいひと時を過ごすことができた。交流登山はあいにく曇りだったが、笑顔は快晴で、立山駅で解散する時には「ありがとう！また来るね」「今度はこっちにおいで」の声が嬉しくてちょっと涙が出た。いい２日間でした！

▲△４：各地方連盟・ブロックで雪崩講習会 2017 年の予定

今シーズンも、地方協議会単位での雪崩講習会が各地で予定されています。全国連盟に寄せられた各地の開催予定をお知らせします。詳しくはブロック（B）担当者にお問合せください。

★第３１回全国雪崩事故を防ぐための講習会　2017 年２月 10 日～12 日
　　長野県・中央アルプス千畳敷カール　実施要綱の請求は jwaf@jwaf.jp　へ

★北海道Ｂ　講習会の日程（予定）
　2016 年 11 月 27 日（日）９ 時～ 16 時：　開講式・総合理論講座 りんゆうホール
　2016 年 12 月 17 日（土）～ 18 日（日）：　講師養成クラス講習会
　　17 日午後 りんゆうホール、18 日終日 中山峠周辺
　2017 年 1 月 19 日（木）19 時～ 21 時：実習ミーティング　エルプラザ中研修室
　2017 年 1 月 28 日（土）～ 29（日）：１泊２日終日　実習講習会　キロロリゾート
　　申し込み・問い合わせは北海道雪崩講習会　http://h-nadare.com/　　参照

★奥羽Ｂ（青森県）未定
　　2016 年は２月７日（日）県立自然ふれあいセンター（梵珠山）実施

★奥羽Ｂ（岩手県）未定
　　2016 年は１月 23 日～24 日　県連雪崩講習会　（盛岡市・八幡平）実施

★東北Ｂ　2017 年２月 26 日(日)【弱層テスト・雪質観察コース】【ビーコン捜索コース】
　　澄川スキー場　　詳細は　https://www.facebook.com/miyagirousan/

★関東Ｂ　2017 年１月 21 日（土）～ 22 日（日）谷川岳天神平および白毛門登山口
　　詳細・申し込みは　http://www.jwaf.jp/upload/info/382.pdf

東北Ｂ講習会より転載

北海道Ｂ中級講習会より転載

★北陸Ｂ　2017 年１月 22 日（日）机上（松任総合運動公園体育館）
　　2 月 25 日～26 日　立山山麓スキー場とその周辺
　　詳細は　http://iwaf.jp/ndr/　参照

★東海Ｂ　2016 年 11 月 13 日（日）　机上　愛知県勤労者山岳連盟事務所
　　2017 年１月 21 日（土）実技　御嶽山山麓　　詳細　申し込みは
　　http://aichirousan.web.fc2.com/other2016/20160912nadareboshu.pdf 参照

★近畿Ｂ　机上　2016 年 12 月 10 日（土）と 18 日（日）大阪府勤労者山岳連盟事務所
　　実技　2017 年１月 21 日（土）～ 22 日（日）中央アルプス千畳敷カール周辺

実技　2017 年 1 月 28 日（土）～29 日（日）比良山・大山口～堂満ルンゼ付近
詳細は　ttp://www.dab.hi-ho.ne.jp/kyouto-rozan/dai24kinburo_nadarekosyukai.pdf

▲△５：労山顧問「田部井淳子さんを送る会」が 12 月 18 日に開催されます

労山顧問で、女性世界初のエベレスト登頂者（1975 年・日本女子隊）である田部井淳子さん（77 歳）が、10 月 20 日にがんのため逝去されました。

田部井さんは、1969 年に「女子だけで海外遠征を」目指し「女子登攀クラブ」を設立。1975 年には日本女子隊で世界初の女性エベレスト登頂を果たし、1992 年には女性世界初の 7 大陸最高峰登頂を達成しました。また、労山など山岳団体とともに山岳環境保護団体「ＨＡＴ－Ｊ」を設立し、代表を務めました。近年は、東日本大震災の被災者を応援する「東北の高校生の富士山登山」を主催しています。また、労山の顧問にも就任され、各地での講演など、労山にもさまざまにご協力いただきました。通夜及び葬儀は近親者により済んでいますが、故人とご縁のあった方々によるお別れ会「田部井淳子さんを送る会」が 12 月 18 日に開催されます。当日は、労山からも、田部井さんに惜別と感謝の気持ちを込め、参列する予定です。

田部井淳子さんを送る会
日時　12 月 18 日（日）14 時 30 分～16 時
　※案内状を持参している方は 13 時から
場所　昭和大学キャンパス内・グリーンホール
　東急田園都市線・三軒茶屋下車）

また、前回号でお知らせした労山主催の「労山創立者・伊藤正一さんと、元理事長・山本辰平さんをしのぶ会」ですが、山小屋関係者による伊藤正一さんのお別れ会が来春開催で調整中のため、それを待って、具体化する予定です。